

科 目 名	学び学特論		副題		
担 当 者	佐伯 胖				
開 講 期	後期	単位数	2 単位	配当年次	1 ・ 2 年次
授業の概要	いわゆる「学習」（動物を含めた生物の行動形成）についての心理学、すなわち学習心理学は、20世紀後半から数度にわたって大きな変革を経てきた。とくに、人間の学習は、過去の学習心理学と決別し、人間学の一領域として新しく生まれ変わり、発展してきている。そのきっかけを作った理論は、「正統的周辺参加論」とよばれている。講義では、この理論をさらに人間学的観点から発展させた「学び学」を提唱する。				
授業のねらい・到達目標	「学習」についての科学研究は、長い間、行動主義心理学の考え方に支配されていたが、それへの根源的批判から、認知心理学、状況論を経て正統的周辺参加論に至っている。講義では、それらの経緯をたどり、人間学的観点からの「学び学」の考え方を習得することを目標とする。				
授業の方法・授業計画					
1	「勉強」と「学び」				
2	メタ理論—理論のタテ糸・ヨコ糸・ナナメ糸				
3	行動主義とは何か				
4	認知革命とは何か				
5	人工知能と学習科学				
6	認知的徒弟制論				
7	「ダイエット算数」とは何か				
8	状況論革命				
9	正統的周辺参加論				
10	「学校化」のおそろしさ				
11	「学ぶ」ということの意味				
12	考えることの教育				
13	「わかる」ということの意味				
14	「わかり方」の探求（1）				
15	「わかり方」の探求（2）				
期末					
授業に関する連絡	毎回、最後の10分で授業についての質問、コメントを「リアクション・ペーパー」に書いて提出する。11～15回は当該書籍の1章を読んで、感想を出し合い討議する。				
評価方法及び評価基準	講義の区切れ目で、レポートを提出する（50%）。講義の最後には講義全体を振り返ってのレポートを提出する（50%）。それらを基に総合的に評価する。				
事前・事後学習の内容	講義の展開過程で逐次、参考文献を紹介するので、できるかぎりそれらを事前に読むことが求められる。				
履修上の注意	全講義に出席のこと				
テキスト	J. レイヴ&E. ウェンガー著佐伯 胖訳『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』産業図書、1993年				
参考文献	佐伯 胖著『「学び」の構造』東洋館、1975年 佐伯 胖著『イメージ化による知識と学習』東洋館、1978年 佐伯胖ほか著『子どもを「人間としてみる」ということ』ミネルヴァ書房、2013年				